

まずは、今、卒業証書を手にした、六十三名の卒業生の皆さん、ご卒業、おめでとうございます。

コロナウイルス感染症対策で、様々な大会や行事が中止や簡素化されている中、高根沢町立北高根沢中学校、「第七十五回 卒業式」を、高根沢町教育委員会、教育委員の方々の御臨席のもと、挙行できますこと、卒業生はもとより、教職員・在校生にとって、大きな喜びであり、厚く御礼申し上げます。いつもの年とは少し違った卒業式ですが、最上級生として、本校を支えてきた卒業生への感謝の気持ち、そして心から祝福する気持ちは、変わりません。今の状況の中で、できる限り、卒業生、そして保護者の方々の心に残る卒業式にしたいと考え、計画を立て、今日を迎えました。

さて、皆さんとの出会いは、今年度四月の新任式の日でした。三年ぶりに中学校へ着任し、不安の大きかった私に、皆さんはとても優しく、そして、たくましく見えました。その時の生徒会役員の働きぶり、そして生徒代表歓迎の言葉は、今でも印象に残っています。

その後もコロナ感染症対策をとっての入学式、生徒会長の歓迎の言葉、とても素敵でした。六月に半日で実施した体育祭、三年生種目の〇×玉入れでの、「かたぐるま大作戦」判定はやり直しになりましたが、心の中では、よく考えたなど感心していました。そして六月二十七日から、二泊三日で宮城・仙台への修学旅行。時期も方面も変更になってしまいました。皆さんからの不平や不満は、一切ありませんでした。立派でした。無事に行け、皆さんが楽しんでいる様子が見られ、ほっとしたのをよく覚えています。

その後もコロナウイルス感染症と戦いながらの総合体育大会、合唱コンクール、将来に向けての高校入試と、三年生の力強さをたくさん感じることができました。本来であれば、みなさんが活躍し、輝ける場や機会が、もっともっとたくさんあったはず。そして、もっと成長できたのではないかと考えてしまいます。でもみ

なさんは、こんな我慢をしながらの学校生活の中でも、前を向き様々なことに取り組み、校長として、期待している以上に成長してきたと感じています。そんな皆さんに、今、校長として、そして、本校を卒業した先輩として、九年間の義務教育を、修了した証明である卒業証書を一人一人手渡すことができ、本当に幸せを感じています。

さて、今日は卒業する皆さんに、最後のお願いを一つしたいと思います。それは、今の社会は、情報通信技術の急速な発展、社会・経済のグローバル化や、超少子高齢化の進展により、生活の基盤も大きく変化している激動の時代です。そのような中でも、本校で学んだことを忘れず

「今、自分が置かれた場所で、今できることを、精一杯、素直にやりとおしてください。」

こんな気持ちで学習や仕事をしていると、必ずそれを見て初めに助けしてくれる人が現れてきます。次にその学習や仕事ぶりを、認め、褒めてくれる人が現れてきます。そして、認めてくれた人達が、自分のやりたい学習や仕事へと導いてくれます。みなさんのこれから的人生において、自分の思いどおりにならないこと、本当はやりたくないけれど、我慢してやらなければならぬことなど、たくさんあります。そんなときは、

「置かれた場所で、今できることを、精一杯、素直にやりとおす」

を思い出して、乗り越えてください。それが、みなさんの人生においての、幸せにつながると思います。

保護者の皆様、本日は、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。私共教職員は、お子様の成長の一助になれるよう、日々努めてまいりました。至らない点多々あったことと思いますが、それにも関わらず、本校教育に、深い御理解と、温かい御協力をいただき、心から感謝申し上げます。

さて、卒業生の皆さん。いよいよお別れです。自分が

学び巣立っていく北高根沢中学校、そして自分が生まれ育った郷土、高根沢町を愛し、国際的な広い視野とより高い志を持って、自分の信じた道を力強く前進してくれることを祈念し、式辞と致します。

では、名残は尽きませんが、卒業生の前途が洋々たることを祈りつつ、式辞といたします。

令和四年三月九日

高根沢町立北高根沢中学校長